

# 日本版改良藤田スケールに関する ガイドラインの見直しについて

---

令和5年3月15日

気象庁

# 改善に向けた近年の取組状況

2016

日本版改良藤田スケールの運用開始

2017

第7回 検討会 2017年2月8日

新たなDI（被害指標）、DOD（被害度）の必要性を確認

2018

第8回 検討会 2018年2月16日

8つのDIでDODの見直し

住宅棟において屋根ふき材の追加や区別、園芸施設や自動車において目視で分かる程度の被害の追加、電柱における耐力を考慮など

2019

第9回 検討会 2019年2月22日

2つのDIでDODの見直し、25m/s未満の追加など

木造の住宅または店舗における目視で分かる程度の被害の追加、鉄筋コンクリート造の集合住宅における評価の見直しなど

2021

第10回 検討会 2021年3月23日

研究の進捗状況や検討の方向性の確認

2022

第11回 検討会 2022年3月10日

最近の研究状況の報告

住宅の外壁材、街路樹、船舶など

2023

第12回 検討会 2023年3月15日

研究の進捗状況や検討の方向性の確認

# 今後の検討対象（令和3年度から継続）

## ● 船舶

船舶の模型と安定性曲線から転覆風速を計算する方法を検討中

## ● 住宅等の外壁材

窯業系・複合金属サイディング、ALCパネル、鋼板製外壁を検討中

DI1:木造住宅等

DOD6:金属系外壁材のはく離



DOD6:外壁材のはく離

DI2:鉄骨系プレハブ住宅等

外壁材のはく離（新設）

→これらが追加されると調査の幅が広がることが期待される。

## ● 街路樹

街路樹の腐朽・根株腐朽の状態で根返りや幹折れを検討中

他に被害が集団的か否かで代表値か下限値を区別する運用等

→ 過去事例を用いて検証

来年度は、これらの研究成果を踏まえながら、「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」に実装することを目指す。

# 予備スライド（現在の被害指標一覧）

No.	被害指標（DI）
1	木造の住宅又は店舗
2	鉄骨系プレハブ住宅又は店舗
3	鉄筋コンクリート造の集合住宅
4	仮設建築物
5	大規模な庇・独立上家の屋根
6	鉄骨造倉庫
7	木造の非住家建築物
8	園芸施設
9	木造の畜産施設
10	物置
11	コンテナ
12	自動販売機
13	軽自動車
14	普通自動車
15	大型自動車

No.	被害指標（DI）
16	鉄道車両
17	電柱
18	地上広告板
19	道路交通標識
20	カーポート
21	塀
22	木製・樹脂製・アルミ製フェンス、メッシュフェンス
23	道路の防風・防雪フェンス
24	ネット（野球場・ゴルフ場等）
25	広葉樹
26	針葉樹
27	墓石（棹石）
28	路盤
29	仮設足場（壁つなぎ材）
30	ガントリークレーン